

訪問型ささえあいの人材確保に係る所属先で行える（行っている）取組みについて

人材	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス協会に加入している介護従事者より募って専門的知見を持った2名から3名のチームを作る。最初は1時間〇〇円と決め受託契約という形でスポット的支援を行っていく。支援の過程で事業所間のつながりから担い手として相応しい人材を模索し発掘する。人手不足ではあるが介護事業所より自ら手を挙げてもらえる人材発掘が一番早く実現的な気がする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、こども未来部と契約している「産後ヘルパー派遣」等と同じように生活支援に関する要請があれば担当課からシルバー人材センターにご依頼いただき登録会員を紹介することが可能。シルバー人材センターが請け負う業務に限るため、詳細を取り決めた仕組みが必要である。 例) 居宅の簡易清掃、調理、洗濯、買い物、話し相手、定期的な近況確認市内の病院の付き添い（徒歩・タクシーのみ）等 就業会員については、女性だけではなく男性も候補とし、知識、技能習得には兵庫県シルバー人材センター協会主催の「介護&生活支援」の技能講習会等を活用する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ですでに参加されている60歳以上の方のシルバー人材センター会員登録を推し勧め、有償での就業として持続的に支援を担っていただく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近で資格を取得できる」サポート さわやか北摂では現在「福祉有償運送運転（協力）講習」と「同行援護従業者養成講習」の資格が取得できる学校を開講している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・川西市が行っている「生活支援サポーター養成研修」の講習をさわやか北摂でも受講可能となればより身近に資格取得を考えられる環境が提供できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材募集の手法の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動センターの機能強化
仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「活動したい人」が増えるためには、「できることがある」と気づいてもらえるような活動する側の立場に立った助けあいの仕組みが必要。（さわやか北摂で行っている助けあい活動は、仕組みをリニューアルし「活動したい人」が第一歩を踏み出しやすいように検討している）
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した生活支援サポーター交流会で研修に興味があり参加したがいざとなると「個人宅で一人で仕事するのは不安…」という声があった。不安な気持ちを払拭する仕組みが必要。 例) ・二人で行う ・何度か先輩が同行する 等
	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスや内容をハードル別に区別し、活動の内容を選択ができるようにする。 例) 調理について従事者が行う業務を選択できる A=利用者と一緒にやる B=従事者のみで行う C=買い物と調理を従事者がすべて行う D=味やアレルギーにも注意が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく始めた助けあい活動（有償ボランティア）を長く続けてもらえるように現代に合わせた仕組みづくりが必要。 ・子供会の解散が全国的に広まりつつあるが、解散後も保護者が残したい事業を実現したと聞いた。何もできないのではなく、必要あれば協力し合うのだと感じた。若い世代同士で「してもらおう」ばかりではなく、「してもらおう・してあげる」の「お互い様」の環境づくりが必要。
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な場で活動の目的、やりがい、社会参加の意義などを伝えていく等、広報の強化。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りを行った際の相談内容を関係機関と毎月共有（介護保険課等）している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議に参加し情報共有している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・下加茂加寿会（老人会）では、自治会長・地域包括支援センターと連携を密にし必要に応じ民生委員にも呼びかけて事象に対応している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・下加茂加寿会（老人会）会員の個人情報もケアマネと情報共有できており、守秘義務も守られている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所・カフェ・広場を開催（手と頭の体操、脳トレ）毎月開催。 ・100歳体操（フレイル予防）いきいき元気クラブ（包括主催年1回）の開催。
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラバンメイト・認知症サポーター養成講座（年1回）を開催し認知症への理解を広めている。

訪問型ささえあいの人材確保に係る所属先で行える（行っている）取組みについて

その他	<p>・ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等で働く介護支援専門員に対し、地域診断・政策提言へとつながる地域課題の抽出・分析等に必要となる地域ケア会議の意義を周知し、開催が増えるような研修等を行う。</p>
	<p>・ 川西市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットかわにし）の活動と地域ニーズとのマッチング。</p>
	<p>・ 地区福祉委員会では、介護を必要とする人を少しでも減らすために介護予防事業を10年以上前から取り組んでいる。今後も回数を増やし口腔ケア、運動、脳の活性化、そして心のケアにも挑戦したい。</p>